

カタリナひろば

Vol. 21 No. 1

2008. 11

聖カタリナ大学

聖カタリナ大学短期大学部





ヘルスプロモーションセンター「サルデー」



今年4月に完成した、ヘルスプロモーションセンター「サルデー (Salute)」。この春入学した健康スポーツマネジメント専攻の学生のみなさんが、未来の健康運動の指導者を目指してここサルデーで授業を受けています。学生のみなさんの授業風景を紹介しながらその内部をご案内しましょう！

サルデーの内装は色によるエリア分けがされており、トレーニングスタジオは赤、フィットネススタジオはオレンジ、講義フロアはブルーと、誰が見てもその場所が一目で分かるようになっています。

トレーニングスタジオ



トレーニングスタジオは2つのエリアに分かれています。フリーウェイトエリアにはプロ用のフリーウェイト用具が揃っています。スクワットやベンチプレス、デッドリフトなど、ウェイトトレーニングの基本をここで学びます。

有酸素性トレーニングエリアは、エアロバイクやトレッドミルなどを揃え、効率の良い有酸素性トレーニングを実施します。写真右下はエアロバイクを用いた有酸素性能力の評価方法と、それに基づく適切な運動負荷の設定方法を学んでいるところです。

フィットネススタジオ



フィットネススタジオでは「エアロビックダンス」をはじめ、「ヨガ」や「ピラティス」などのスタジオプログラムを自ら実践し、その指導法を学びます。他にもストレッチや簡易体力測定を行ったり、それを学んだりすることで、健康づくり運動の基本を身につけます。

スタジオの壁には鏡が設置されており、学生たちは自らの動作を確認しながら運動を行います。またエアロビックダンスにはBGMがつきものですが、2重ガラスになっているため、スタジオ外への音漏れの心配はありません。

講義フロア



サーユーは、実技と講義が連動して行えるように、トレーニングスタジオと講義スペースが隣り合わせに配置されています。

例えばスタジオで体力データを測定し、講義フロアの液晶プロジェクターにそのデータを表示して学ぶ、逆に講義フロアでまず知識を学び、それをすぐにスタジオで実践するという使い方が可能になっています。

その他の施設



体力測定室、心理測定室、実験室では運動による心身の変化について詳しく調べることができます。ミーティングルームは少人数での話し合いや学生相談にも利用されます。

男女別のロッカールームやシャワールームも完備。テーブルやイス、インテリアは全て角をなくしたユニバーサルデザインで、どんな方でも利用しやすく配慮してあります。

健スポ Now!



10月18日(土)に、健康スポーツマネジメント専攻の学生によるサイクリング実習「ツール・ド・しまなみ」が行われました。

コースは本州・四国連絡橋「しまなみ海道」のサイクリングロードを利用しました。今治市サイクリングターミナル「サンライズ糸山」を出発し、伯方島の「マリンオアシスはかた」に到着。休憩後にまた「サンライズ糸山」に戻るといふ、往復約50キロメートルの景観豊かな道のりでした。

当日はとてもよい天気恵まれ、海峡を渡る橋の上では景色を楽しみながらの爽やかなサイクリング実習となりました。途中には自転車を押して進まなければならない難所もありましたが、健スポメンバーは全員無事に完走しました。仲間と共に頑張ることで、大きな達成感と一体感を味わった一日でした。



人間健康福祉学部公開セミナー

「地域変革への戦略」ー地域を良くするための方策を考えるー

聖カタリナ大学人間健康福祉学部では、2008年度公開セミナーを開催します。

このセミナーでは、地域が抱える諸課題への対応を通した「地域変革(ソーシャル・イノベーション)」を担う主体として「NPOのような企業(社会的使命を意識した営利組織)」と「企業のようなNPO(事業性を意識した非営利組織)」に焦点を当て、その取り組みを紹介しながら、行政機関や地域住民のパートナーシップによるまちづくりを考えます。ご参加をお待ちしています。

お問い合わせは聖カタリナ大学総務課(089-993-0702)へ。



【人間健康福祉学部公開セミナー概要】

日 時／ 平成20年12月6日 (土) 13:00～
 会 場／ 聖カタリナ大学 聖カタリナホール
 後 援／ 愛媛県社会福祉協議会、松山市社会福祉協議会
 プログラム／

13:00 開会挨拶

13:10 地域変革への実践

・実践報告①

「若者の夢の実現と地域の活性化を目指して」
 四国・九州アイランドリーグ
 愛媛マンダリンパイレーツ球団株式会社
 代表取締役 薬師神 績 氏

・実践報告②

「障がい者が住みやすい地域づくりを目指して」
 NPO法人どんまい 理事長 谷本 圭吾 氏

14:30 「地域変革への戦略ー共創型地域づくりー」

(株) マーケティングダイナミクス研究所
 代表取締役 上野 祐子 氏 (本学客員教授)

15:30 閉会挨拶

15:40 閉会

人間文化研究所公開講座

「竹内孝仁が語る新しい介護福祉文化論」



聖カタリナ大学人間文化研究所では、「新しい文化の創造」をテーマに2008年度公開講座を開催します。

「在宅ケア」「ケアマネージメント」「介護福祉」「パワーリハビリテーション」「介護予防」など、高齢者ケア全般で活躍されている、国際医療福祉大学大学院教授の竹内孝仁先生を講師に招き、現在の福祉(介護)を取り巻く混沌とした状況を「文化論的」視点(切り口)で語っていただきます。

多くの皆様方のご参加をお待ちしております。

【人間文化研究所公開講座概要】

日 時／ 平成20年11月29日 (土) 14:00～16:00

会 場／ 聖カタリナ大学

講 演／ 国際医療福祉大学大学院教授 竹内 孝仁 氏
 「竹内孝仁が語る新しい介護福祉文化論」

参加費／ 無料

問合せ／ 聖カタリナ大学 総務課

TEL 089-993-0702

Topics

2008年度大学祭「Fly ～刻(とき)をきざめ～」

2008年度大学祭「Fly ～刻(とき)をきざめ～」を、10月24日(金)から26日(日)にかけて開催しました。

24日は大学祭ミサとらくさぶろう氏による大学祭講演、25、26日は一般公開日として各種の催しを行いました。

ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。



理事長講話



カトリック短大理事長・学長研修会



【9月19日(金)】

2008年度日本カトリック短期大学連盟理事長・学長研修会が、本学を会場校として開催されました。全国のカトリック短期大学の理事長・学長にご参加いただきました。

兵庫教育大学長の梶田叡一先生による基調講演「今こそカトリック教育を」の後、カトリック教育をどのように実際の教育に生かしていくかについて、協議・情報交換を行いました。

野外活動実習



【10月12日(日)～13日(月)】

松山市菅沢町の松山市野外活動センターで、社会福祉学部のレクリエーション・インストラクター資格取得コース受講生による野外活動実習が行われました。

テントの張り方やキャンプ用品の使用方法、食事作りや野外で楽しめるゲームなど、野外活動の技能を学びながら、集団生活を通して友達との交流を深める楽しい実習になりました。

【10月16日(木)】

今年の理事長講話は『建学の精神と世界への奉仕：須田珠加氏アフリカで生きる』と題し、1998年に本学(聖カタリナ女子大学)を卒業した須田珠加さんに講演をお願いしました。

須田さんは青年海外協力隊員として2004年から2007年までウガンダ共和国に赴任し、知的障害児に手洗いやトイレ、着替えの仕方など身のまわりを清潔に保つための教育などを行ってきました。また2007年には、知的障害をもつ人々のスポーツの祭典「スペシャルオリンピック」上海大会に、ウガンダチームのコーチとして参加しています。

ウガンダの人々の生活や風習、AIDS克服のための取り組みや知的障害をもつ人々のおかれている状況など、現地で長く活動をされた方ならではの大変興味深い講演でした。

教員 ESSAY

エジプトの IBM



人間健康福祉学部講師
山本 真嗣

エジプトには、あまり信号がない。あっても誰も守らない。だから道路を横断するのも一苦勞である。でも、エジプト人は交通量の多い道路でもスイスイと器用に渡っている。よく事故に遭わないものだ。

ある時、カイロ市内で道路を横断しようとしたものの、車が途切れないので、途方に暮れていたところ、後方からやってきたエジプト人に声をかけられた。

「ウォーク・ライク・アン・エジプシャン」

ん、どこかで聞いたような？ バングルズの懐かしの名曲。「意識してこのフレーズを使ったのだろうか……」などと考えつつ歩いていると、道に迷いそうになった。

エジプト人達は道路を渡る時だけでなく、普段の生活でもひょうひょうと肩の力を抜いてうまくやっている感じだ。実をいうと、一度、エジプト人のいい加減さに腹を立てた事がある。友人と一緒に、地図を頼りに在カイロ日本大使館を探しに行った時のこと。なかなか見つからないので、近くにいた警察官に道を尋ねてみた。

警官 「それなら、この道をまっすぐ行けばいい」

なんだ。やっぱりこの辺りじゃないか、などと思いつつ言われた通りに行ってみた。が、大使館はない。

「おかしいな……」

別の人に尋ねる。今度は反対方向。

「??？」

やはりない。結局、7人に尋ねてみたものの、わからずじまい。

「今日は諦めて帰ろう」

来た道を引き返すと、大使館はその道沿いにあった。なんと全員の答えが間違っていた！



カイロ市内のスーク（市場）



もっとも美しいといわれる
カフラー王のピラミッド

はじめてエジプトを旅行する人は、多かれ少なかれ「IBM」に悩まされるのではないだろうか（旅行業界で10年以上の実務経験がある私も含めて）。「IBM」といっても、もちろんあのIT系多国籍企業のことではない。インシャアッター（神が思し召すならば）、ボクラ（明日）、マラーシュ（気にするな）の頭文字である。

これらのうち、たぶんもっとも応用範囲が広いのが「インシャアッター」。約束するときには相手がこのセリフをいうと、その実行は神にゆだねられる。つまり、「神の思し召しが必要れば約束は履行されない」ということ。

「ボクラ」は、「わかったわかった、明日な」という意味合いで使用される。これも気軽に信用すると痛い目に遭う。

そして、最後の「マラーシュ」であるが、タイの「マイペンライ」（気にしない）あるいは沖縄の「ナンクルナイサー」のようなニュアンスはあるものの、こちらはそんなほのぼのする言葉とはちょっと違う。よく使われるシチュエーションが決定的に異なるのだ。はじめてエジプトに到着したとき、空路でカイロから入国した筆者は、タクシーでホテルへ。ドライバーは60歳くらいの男性だったが、道をまちがえてしまい（故意だったのかもしれないが）、大幅に遠回りして時間をロスしたあげく、運賃もきっちり請求された。そのときドライバーが一言。

「マラーシュ」

先のデタラメな道案内に話を戻そう。あるエジプト通の日本人に言わせると、それはエジプト人流の「思いやり」なのだという。外国人が困って道を尋ねているのに、「知らない」などという「冷たい」言葉を返すことはできないのだそうだ（単にいい加減なだけのような気もするが……）。

本当にその通りなのかは定かではないが、思い当たることがまったくない訳でもない。例えば、スーク（市場）を歩いていると、必ず人混みに出会う。そんな時、人にぶつかったり、足を踏んでしまったり、という事もよくある。これまでに、そのことで怒ったエジプト人を見た事がない。たいてい、何もなかったように通り過ぎて行く。なるほど。こういう時に、「マラーシュ（気にするな）」と声をかけてやればいいのか。あまり難しく考える必要はなさそうである。

エジプトにいる間は、エジプト人と同じように考え、行動したほうがストレスは少ないのかもしれない。少なくとも道路を横断する時は、そうしたほうが良さそうだ（Walk like an Egyptian）。



スーダン国境近くにあるアブ・シンベル神殿

秋山 昌江 ゼミ

高齢者やその家族、施設の方々と
ふれあいながら学びを深める

誰もが迎える「老い」についての理解を深め、現代社会の中で高齢者にとっての価値、幸せ、生活などについて考えています。



●ゼミの特徴を教えてください。

高齢者に関する領域全般が対象ですから、ゼミで扱うテーマは幅広く広がっています。学生の自主性や主体性を大切にしたいと思っていますので、自分の関心領域について自分で調べることを重要視しています。



●ゼミの授業スタイルはどういったものでしょうか？

3年生の前期は、老年期の理解、加齢に関する社会文化的影響、社会保障の動きなどに関する理解を深めるために、教員がさまざまな角度から話題を提供します。後期は高齢者に関する今日的な課題を取り上げ、学生個々が自分の関心領域について調べ、発表し議論を重ねます。

4年生は3年生からの自分の課題についての研究を続けます。できる限り地域に出向き、高齢者や家族の方々、施設や事業所の職員の方々とはふれあう機会を通して、研究を深めていくようにしています。その成果は4年生の後期にほぼ一日かけて発表し合います。それをゼミ論としてまとめています。大変苦勞している学生が多いですが、最後は満足感を得ているようです。

●今後の活動としてやっていきたいことは？

以前はみんなでフィールドに出て調査をしたり、ボランティア活動もしていましたが、今は少し遠のいています。是非復活させたいと思っています。

●ゼミ生にどんなことを学んでほしいですか？

主体的に学ぶ姿勢を身につけてほしいと思っています。知らないことが分かるようになるおもしろさや、自分が知り得たことを、どうすれば相手に興味を持ってもらえる伝え方ができるかなども学んでほしいと思います。

●どのような学生にゼミに入ってもらいたいですか？

自分から進んで何かをしたいと思っている学生、行動力のある学生を歓迎します。

●ゼミ生へのメッセージをお願いします。

継続は力です。

毎回楽しく過ごしています。ありがとう。



◆秋山ゼミはこんなゼミです！

私たち秋山ゼミは、男子4名、女子11名の学生をはじめ、「脳が大好き」秋山先生を含めた16名で活動している賑やかなゼミです。ゼミ活動では、先生の専門が高齢者分野なのもあって、高齢者の体や心について講義形式で学んでいます。4年生になると学生それぞれに興味のあるテーマについて、ゼミ論 or 卒論を書くことになっていて、現在は各自で論文まとめをしている最中です。論文のテーマは講義を参考にしていて、介護関係が多いですね。

さて、ゼミメンバーはというと、介護福祉専攻の学生が多いのでお互い顔見知りばかりですが、そこはそれキャラの濃い秋山ゼミ。3年次編入の学生たちも加わって、ぼやっと天然系からカッコリした真面目っ子までいろんな学生がそろっています。

そしてそんな愉快的な仲間たちを率いるのは、これまた個性的な秋山先生。毎度のゼミでは、脳の機能について取り上げて、そのたび大変嬉しそうに(?)講義して下さっています。えっ、そう聞くとすごく難しそう?いえいえ、そこは先生が分かりやすく説明してくれるので、非常に専門的なことまで勉強できますよ。

とまあ、勉強に関しては真面目な秋山ゼミですが、それ以外是一緒にお話したり、ゼミみんなでご飯を食べにいたり仲良くのんびり過ごしています。

先生によく言われるんですが、大学では自分からやらないと何も始まりません。ゼミ論や卒論、大学の授業と、いろんなことに積極的に取り組むことができるのが秋山ゼミ・ゼミメンバーの良いところです。どのゼミに入ろうか迷っている2年生のみなさん!オススメですよ。(・∀・)9

(社会福祉学部4年 村尾 智幸さん)

子育て支援ひろば ぽけっと

今年1月に松山市地域子育て支援拠点事業（ひろば型）として開設された『カタリナ子育て支援ひろば<ぽけっと>』。

開設直後から地域の大きな反響を呼び、今では学内でよちよち歩きのお子さんをつれたお母さんの姿を見ることがごく当たり前の風景になっています。

保育学科長の三好幸夫先生に<ぽけっと>の紹介をお願いしました。

<ぽけっと>は、子育て中の親子が気軽に集える交流の場として、広く一般に開放する施設です。主に0～3歳の乳幼児とその保護者に利用していただいています。開設以来500組以上の親子が利用登録し、毎日平均15組の親子が訪れています。登録時に100円の登録料が必要ですが、その後は無料でいつでも自由に利用することができます。開設時間は平日の10時から15時までとなっています。

<ぽけっと>では常に2名のスタッフがいて、親子をサポートしたり、子育ての悩み相談などに対応しています。さらに保育学科の学生たちも、授業の一環として<ぽけっと>を訪問しており、子どもたちや保護者の方々と直接触れ合う貴重な時間を持たせていただいています。

<ぽけっと>では、子育て関連情報を提示するサービスも行っています。特に地域の関連機関と協力して、近隣の情報をできるだけ詳しくお伝えしています。情報は<ぽけっと>内に掲示する他、毎月発行している「ぽけっと通信」や、ホームページでも発信しています。(http://www.catherine.ac.jp/pocket/)

その他に、おたのしみタイム、おしゃべりタイム、保健室訪問などの実施や、月1回の講習会の開催などを行っています。講習会には「ぽけっとクラブ」という一般向けの講習会と、「サポータークラブ」という子育て支援者を対象とする講習会とがあります。いずれの催しにも自由に参加していただくことができます。

今後も様々な活動を通じ、地域の子育て中の皆さまを支援して参りたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【学生のみなさんへ】

<ぽけっと>では、乳幼児向けに絵本の読み聞かせや手遊びなどをしてくれる学生スタッフ（ボランティア）を募集しています。詳細は保育学科の日野先生にお尋ねください。また、スタッフの許可を得れば見学をすることもできます。



クラブ紹介 卓球同好会

我々卓球同好会は、男子5人女子3人の計8人で活動しています。毎週月、水、木曜日に旧体育館で仲良く楽しく練習してます！！

卓球同好会の活動目的は、年に4回ある四国の大会に出場し、いい成績を残すことです。いい成績を残すため、もちろんきちんとまじめに練習します。ですが！！そんなに毎回毎回きちんとまじめには出来ないと思うので、間に新人歓迎会やお食事会などもします。と言っても今年はまだ新歓してないですが・・・(笑)

卓球は、世間では地味で楽なスポーツだと思われがちですが実は・・・ものすごくしんどいスポーツです。試合中や練習中は窓とカーテンを閉め切って(もちろん夏も)、もう汗だくです。ふらふらです。でも！！その分試合で勝った時の喜びはもう、例えようがないです。



自称総監督兼選手兼金庫番兼コーチと言い張ってしょうがない人や、イケメンエースや、自称日本一のバックハンドと言い張ってしょうがない人など個性的なキャラが多いので練習来ても損はしない・・・きっと。行くか行かないか迷っている人！！もう迷う暇あったら行ってみよう！！
Let's go to the 旧体育館！！！！

(福祉経営学科3年 森分 宗太郎さん)



最近の試合では、四国インカレの男子シングルスで社会福祉学科2年生の野田佳宏さんがベスト16、他の試合でもまあまあの成績を収めています。うちのサークルは負けず嫌いが多いため練習をもっと頑張ればもっといい成績が残せるはずですよ。あとは人数を増やすだけ！！！！！！ということ卓球経験者、未経験者誰でもいいので「卓球してみたい！！選手として遠征に行きたい！！」と、ほんの少しでも思ったら迷わず速攻で旧体育館までお越しください！！結構人数足りないので本気でよろしくお願いします。



図書館から 新着DVD紹介



キャサリン・ハードウィック監督
2006年 アメリカ映画 100分

今回取り上げる映画は「マリア」です。この映画の原題は The Nativity Story といいます。意味はもうご存知のことと思いますが、「イエス・キリスト降誕」という意味ですね。映画はそのキリストの誕生までを聖書や歴史学の研究成果から、忠実に描いていきます。この映画の制作にあたっては、神学者、歴史学者の方々が多数参画したとのこと。ですから、映画の中心となるストーリーはもちろんのこと、さまざまな場面にあらわれる映画の小道具から、その時代の衣装や食べ物、植物、動物といった時代考証までも、そうした専門家の意見を反映して、学術的にも忠実に作られているとのこと。

カトリックの大学で学ぶ私たちにとって、聖書はなくてはならない教えの書ですが、この映画「マリア」は、そうした文字からの教えとはまた違った視覚的な方向から、教えを深く知るうえで有益なものとなると思います。

この映画の監督は、キャサリン・ハードウィックという女性の監督です。そのせいでしょうか、映像も繊細で美しい印象を受けます。ぜひ一度ご覧ください。

(図書課 玉岡 兼治)

夏炉冬扇 Karo-Tousen

娘と松山まつり

四国には全国的に有名な踊りが多く、徳島の阿波おどりや高知のよさこい、そして松山の野球拳おどりのひとつと言えるでしょう。松山まつりに野球拳おどりが登場したのは、昭和45年第5回松山まつりからとのこと。それまでのおどりがいまひとつ市民に溶け込みにくいという理由から平成元年の松山市制百周年記念の年に、新しい踊りとして「野球サンバ」が登場し、現在の松山まつりのスタイル（野球サンバと野球拳おどり）になったそうです。

我が家の娘が通う幼稚園では、毎年在園生とその兄弟や保護者が松山まつり「野球サンバ」に出場しています。おのずと娘と私も昨年に引き続きこの野球サンバチームに加わり、お友だち親子とわいわいやりながら楽しみました。

今年のテーマは「燃えよ！カンフーキッズ！」男の子は孫悟空風、女の子はチャイナドレス風の手作り衣装を身にまとい、松山まつり初日の8月11日、野球サンバのトップバッターを飾って大街道（三番町）をスタートしました。野球サンバの音楽に「ビバ！ビバ！まつやま！」の大きな掛け声を合わせ、目指すは千舟町通り西のゴール地点。踊りはじめは元気がよかった子どもたちも、徐々に掛け声小さくなり途中で踊り疲れる場面も。お母さんたちの必死な励ましと沿道のお客さんからの拍手に元気をもらい、約1時間の道のりをみんな最後まで一生懸命踊り通しました。締めくくりはチーム全体での写真撮影。総勢130名で「はいチーズ！」今年もみんなのかわいい笑顔が写真に収まりました。

入園するまでは、松山まつりの楽しみは花火や露店を単純に見て食べて楽しむことがメインでしたが、在園してからは親子一緒に参加できることになって、楽しい夏の思い出作りの良い機会となっています。いよいよ来年は幼稚園最後の年です。きっとまた「母ちゃん、一緒にサンバでしょう！」との誘いを受け、更にパワーアップしているだろう娘と一緒に、松山まつりを楽しんでる私が居ると思います。

(就職課 森安 三輪子)



カタリナひろば

編集・発行
聖カタリナ大学
聖カタリナ大学短期大学部
広報委員会

〒799-2496 松山市北条660
TEL(089)993-0702(代)
kouhou@catherine.ac.jp